

この木なんの木 樹木名一覧



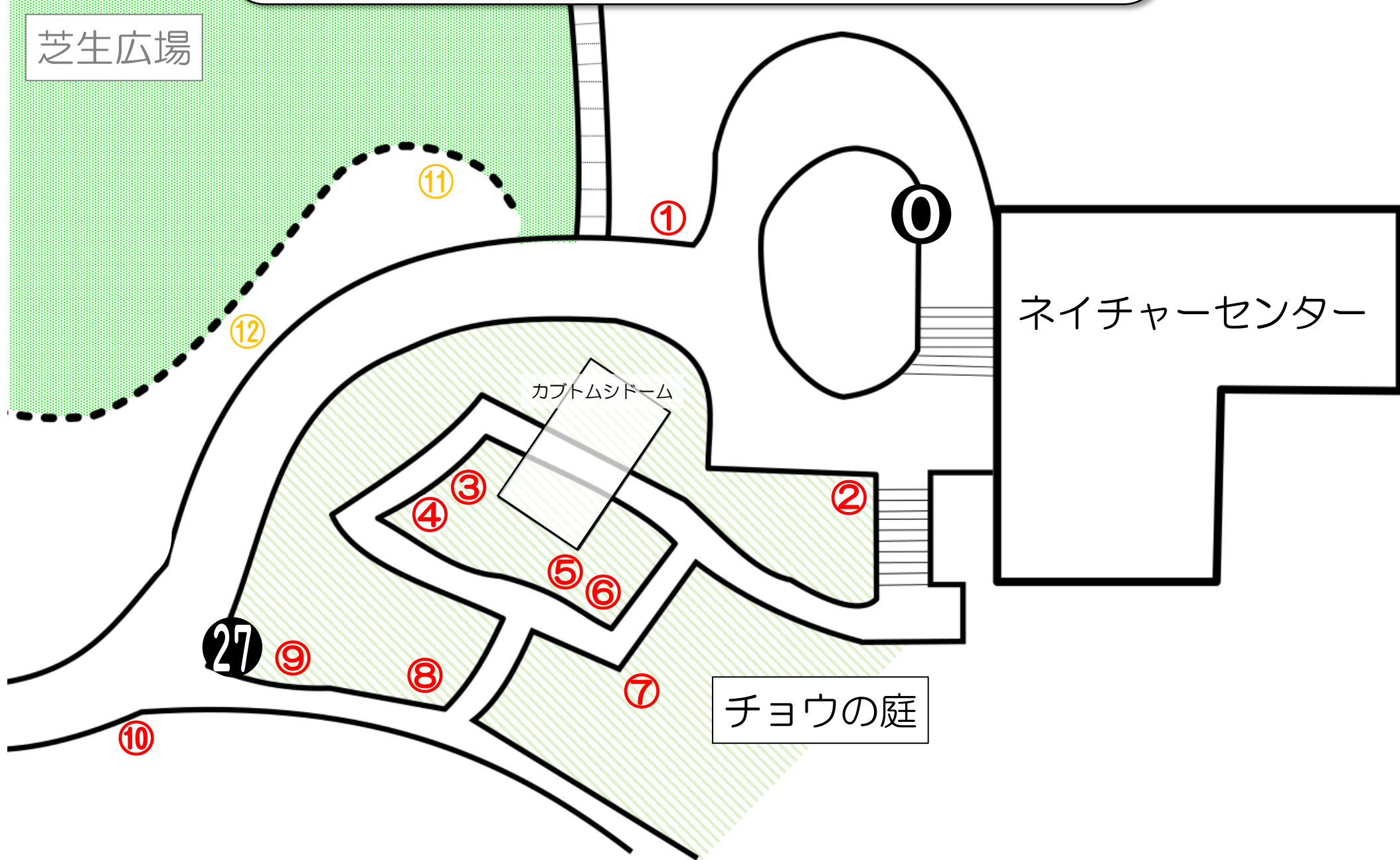
【チョウの庭周辺】

(2024年3月)

No	樹種名 (漢字名/科名)	キーワード	特徴等
1	アラカシ (粗榧/ブナ科)	ドングリの帽子には 縞模様がある。	常緑の高木。 名前の由来は、葉の縁のギザギザが粗いから。
2	クスノキ (楠/クスノキ科)	兵庫県の木。 新芽が出ると、 葉が落ちる。	常緑の高木。 樹皮は細かい短冊状。 葉は樟脳のようなにおいがする。 3本の葉脈の根元にダニ部屋がある。 実は、秋に黒紫色に熟す。
3	ミヤマガマズミ (深山莢迷/レンブクソウ科)	実は赤色に熟し、 食べられる。	落葉の低木。 4～5月に白色の小さな花をつける。 葉は卵形で、葉裏の葉脈は浮き出ている。 実は9～10月に熟し、果実酒などに利用できる。
4	ウメ (梅/バラ科)	実は梅酒、梅干しなどに なる。	落葉の小高木。 2～3月に紅色または白色で芳香のある花を咲かせる。 熟れていない種は、有毒なので食べてはいけない。
5	ウツギ (空木/アジサイ科)	空木の意味で幹が中空。 別名ウノハナ	落葉の低木。 卯月(陰暦4月)に、白い花(ウノハナ)を咲かせる。 葉の表と裏に毛があり、触るとざらざらしている。
6	シャシャンボ (小小坊/ツツジ科)	実は食べられ、 甘酸っぱい味がする。	常緑の低木。 葉は厚くてつやがある。 5～7月頃、白色でつぼ状の小さな花をつける。 ブルーベリーのなかまで、実は初冬に黒紫色に熟す。
7	アベマキ (楡/ブナ科)	樹皮はコルクとしてピン の栓などに利用していた。	落葉の高木。 樹皮は弾力があり、葉の裏は灰白色。 よく似たクヌギの葉の裏は、淡緑色。 実(ドングリ)は翌年の秋に熟す。
8	クサギ (臭木/シソ科)	名前の由来は、枝や葉を ちぎると強い臭気がある から。	落葉の小高木。 花は白色で、7～8月頃に咲く。 葉は三角状ハート形。真紅の萼と藍色の果実が美しい。 若葉は山菜、果実は草木染め、葉や茎は薬用にする。
9	ムクゲ (木槿/アオイ科)	名前の由来は、中国名の木 槿(モッキン)が訛ったと いう説が一般的。 花が次々と咲き、花期が長 い。	落葉の低木。 花は白色、紅紫色などで、8～9月頃に 咲く。葉は卵形～菱形状卵形で3本の脈が目立つ。 果実は卵形で、晩秋に裂けて長毛のある種子を散らす。 古く大陸から渡来した園芸植物。
10	ヒイラギ (柃/モクセイ科)	節分に枝を戸口にさして、 邪鬼の侵入を防ぐ風習が ある。	常緑小高木。 雌と雄の木がある。 11～12月に、葉の腋から香りのよい白い花がかた まって咲く。 若木の葉はふちに大きな鋭いとげがある。

この木なんの木 樹木名一覧 【チョウの庭周辺】

芝生広場



カブトムシドーム

ネイチャーセンター

チョウの庭

この木なんの木 樹木名一覧



【芝生広場周辺】

(2024年3月)

No	樹種名 (漢字名/科名)	キーワード	特徴等
11	ネズ (杜松/ヒノキ科)	葉っぱを触ると痛いので、 ネズミよけに使われた。 別名ネズミサシ	常緑の高木。雌と雄の木がある。 樹皮は、縦に薄くはがれる。 葉はとがり、触ると痛い。実は、秋に黒紫色に熟す。
12	アカメガシワ (赤芽柏 /トウダイグサ科)	新芽が赤い。 葉の基部に蜜線があり、 アリが集まる。	落葉の高木。雌と雄の木がある。 昔は柏の葉と同じように、食物をのせるのに使った。
13	ケヤキ (欒/ニレ科)	公園や街路樹に植えられ る。ほうきを逆さまにした ような樹形が美しい。	落葉高木。花は4~5月頃、葉が出るのと同時に 開花する。葉の縁は鋭いギザギザがあり、表面はやや ざらつく。若木の葉は成木に比べて大きい。
14	クロガネモチ (黒鉄藟/モチノキ科)	秋に赤い球形の実を たくさんつける。	常緑の高木。雌と雄の木がある。 若い枝が黒紫色を帯びている。 樹皮は昔、鳥をとるための鳥もちに利用した。
15	イヌツゲ (犬柘植/モチノキ科)	葉は小さくて厚く、 枝に密生する。	常緑の低木。雌と雄の木がある。 葉が櫛(くし)をつくるツゲに似ているが、 有用でないため犬ツゲと言われる。
16	ヤマモモ (山桃/ヤマモモ科)	夏に赤い実がつき、 食べられる。	常緑の高木。雌と雄の木がある。 若い木の葉の縁にはギザギザがあるが、 年を取ると無くなる。果実酒に使われる。
17	ガンピ (雁皮 /ジンチョウゲ科)	ミツマタ、コウゾと ともに和紙の原材料に なる。	落葉の低木。葉の両面に毛があり、やわらかい。 5~6月頃、淡黄色の花をつける。 夜、匂いを出し、蛾などが集まる。
18	ヒサカキ (姫榊/モッコク科)	姫榊の姫は小さいという 意味。ホタルガの食樹。	落葉の小高木。雌と雄の木がある。 3月頃に白い花をたくさんつけ、都市ガスのようなに おいがする。玉串の代用として使われる。
19	ネジキ (振木/ツツジ科)	幹がねじれた木。 冬芽は赤くて美しい。	落葉の小高木。6月頃、白いつぼ状の花が下向きに ずらっと並んでつく。実は上向きにつける。 冬の時期には、赤い枝が目立つ。
20	ソヨゴ (冬青/モチノキ科)	名前の由来は、風に吹かれ てそよそよと音を立てるか ら。	常緑の小高木。雌と雄の木がある。 6月頃に白色の小さな花をつける。葉の縁は大きく 波打っている。秋に熟す赤い実には、長い柄がある。
21	クロマツ (黒松/マツ科)	樹皮は暗黒色。 別名オトコマツ、オマツ。	常緑の高木。潮風に強く、日当たりのよい 海岸地帯に生える。葉の先端はとがり、にぎると痛い。 冬芽の鱗片は白っぽい。花期は5月頃で、新枝の根元 に雄花、先端に雌花をつける。
22	アカマツ (赤松/マツ科)	樹皮は赤褐色。 別名オンナマツ、メマツ。	常緑の高木。乾燥に強く、山の尾根筋によく育つ。葉 は針形で、2本の葉を合わせた断面は、円形になる。 マツボックリは、熟すまでに2年かかる。

この木なんの木 樹木名一覧 【芝生広場周辺】



この木なんの木 樹木名一覧



【水飲み広場周辺】

(2021年4月)

No	樹種名 (漢字名/科名)	キーワード	特徴等
23	イロハモミジ (伊呂波紅葉/ムクロジ科)	紅葉が美しい。 別名イロハカエデ	落葉の小低木～高木。4～5月頃、小さな花をたくさんつける。名前の由来は、葉の切れ込みを「イロハニホヘト」と数えたことによる。 翼のついた実は風によって運ばれる。
24	ヤマザクラ (山桜/バラ科)	日本の野生の桜の代表。	落葉の高木。3～4月ごろ、葉と一緒に花が咲く。 それに対して、ソメイヨシノは花が葉より先に咲く。 樹皮は樺細工などに利用。
25	イヌビワ (犬琵琶/クワ科)	イチジクのような実。 鳥などは好んで食べる。	落葉の低木。雌と雄の木がある。 葉や枝を折ると白い樹液が出る。 実は夏から秋に黒紫色に熟し、食べられるがおいしくない。
26	コナラ (木樽/ブナ科)	雑木林の主役。 「小さい葉のナラ」という意味。	コナラのドングリの帽子には、瓦状の模様がある。 この森には、全部で7種類(コナラ、アラカシ、スタジイ、クヌギ、マテバシイ、クリ、アベマキ)のドングリがある。
27	ニシキギ (錦木/ニシキギ科)	枝の両側に翼(よく)が伸びる。紅葉が美しい。	落葉の小高木。若い枝ではコルク質の翼が伸びる。秋に実は裂け、中から赤い種が顔を出す。庭木としても植えられている。
28	オオバヤシャブシ (大葉夜叉五倍子/カバノキ科)	荒れ地の緑化に利用。	落葉の小高木。老木になると樹皮がはがれていく。 葉脈は葉の縁迄並んでまっすぐ伸びている。 実は染料に使う。
29	ムクノキ (椋木/アサ科)	紫黒色に熟した実は、甘くて食べられる。	落葉の高木。日当たりのよいやや湿った場所に生える。 花は4～5月、新枝の下部に雄花、上部に雌花をつける。葉は漆器の木地などの研磨に使われた。
30	エノキ (榎/アサ科)	オオムラサキ(日本の国蝶)の幼虫が、木の葉を好んで食べる。	葉には3つの葉脈があり、上半分にギザギザがある。 葉の基部の左右が同じでない。実は秋に赤褐色に熟し、甘くて食べられる。この森にはオオムラサキはいない。
31	アキニレ (秋楡/ニレ科)	花も実も秋に見られる。	落葉の高木。秋に小さな花が咲く。 秋の遅い時期には、翼の付いた実が風に乗って運ばれる。葉が小さく整っている。
32	ガマズミ (莢迷/レンブクソウ科)	赤く熟した実は、甘酸っぱくて食べられる。	落葉の低木。6月頃、白色の小さな花をたくさんつける。花は臭く、この匂いで虫を引き寄せる。 10月頃、球形の赤い実をつけ、果実酒に利用できる。 冬芽は赤みを帯び、短い毛が密生する。

駐車場

この木なんの木 樹木名一覧 【水飲み広場周辺】

33

掲示板

24

23

26

25

27

28

藤棚

32

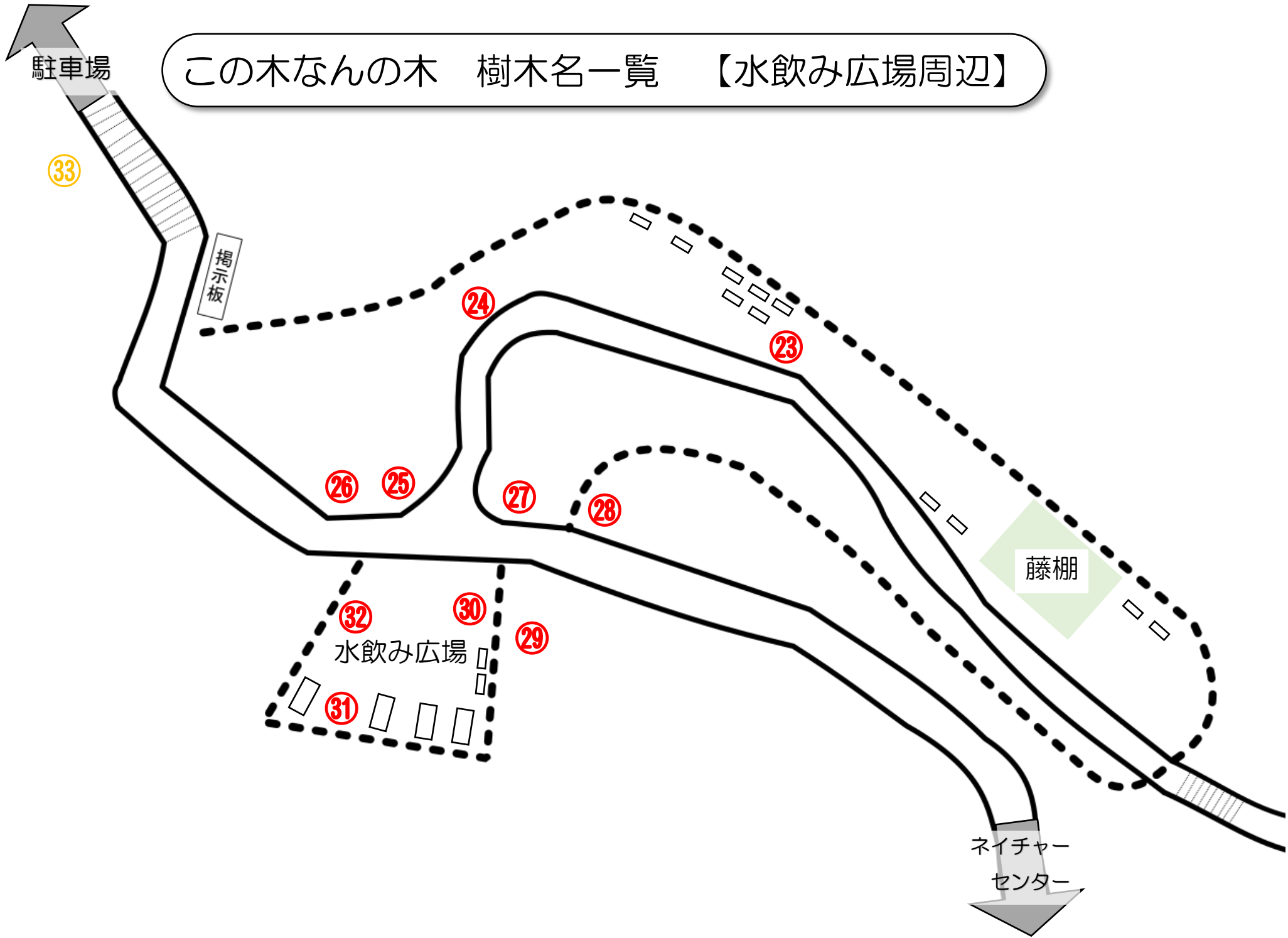
30

29

水飲み広場

31

ネイチャー
センター



この木なんの木 樹木名一覧



【駐車場周辺】

(2025年9月)

No	樹種名 (漢字名/科名)	キーワード	特徴等
33	ナナミノキ (七実の木 /モチノキ科)	たくさんの赤い実をつけるので「七実の木」という。	常緑の高木。雌と雄の木がある。6月頃、淡紫色の小さな花をつける。実は球形で、秋には赤く熟して美しい。
34	サルスベリ (百日紅 /ミソハギ科)	樹皮がなめらか。サルでさえも滑るという意味。	落葉の小高木。樹皮は薄くはがれ、淡い色の木肌をしている。7~10月にピンク、赤色、白色などの花をつけ、花期が長いことから「百日紅」と言われる。
35	ヤブツバキ (藪椿/ツバキ科)	ツバキの野生種。花は丸ごと落下する。	常緑の高木。11~4月頃に、赤色の花を咲かせる。葉の表面は光沢があり、実からは椿油がとれる。庭木など古くから利用され、園芸品種も多い。
36	ネムノキ (合歡木/マメ科)	葉が夜に閉じて垂れるので「眠る木」(ネムノキ)という。	落葉の小高木。6~7月頃、花火のような美しい花を咲かせる。花の色はピンクで夕方に開く。実はエンドウのような形をしている。
37	カラスザンショウ (烏山椒/ミカン科)	葉はカラスアゲハやモンキアゲハなどの幼虫が食べる。	落葉の高木。雌と雄の木がある。葉は大きく羽根のようである。幹や枝にはとげがある。ミツバチの蜜源で、蜂蜜が取れる。
38	イヌマキ (犬槇/マキ科)	熟した実は、緑色と赤色の串団子のように見える。	落葉の高木。雌と雄の木がある。葉は線形で、マキに似る。10月頃に実は熟し、赤色の部分は甘くて食べられるが、赤緑色の部分は毒成分があり食べられない。
39	スダジイ (漢字表記無 /ブナ科)	花が咲いている時、遠望するとブロッコリー状に見える。	常緑の高木。春、淡黄色の雲海のように花を咲かせ、独特なおいで昆虫を引き寄せる。実は食べられるが、熟するのに2年かかる。
40	クヌギ (栲/ブナ科)	葉の縁の先は、針のような突起となる。	落葉の高木。花期は4~5月で、新しい枝に黄色い雄花がぶら下がる。名前は、全国に広く生育しているため「クニギ(国木)」とする説などに由来する。実は翌年の秋に熟す。シイタケ栽培のほだ木として使われる。
41	クリ (栗/ブナ科)	実は、とげがあるイガに包まれる。	落葉の高木(中高木)。花期は6~7月で、独特なおいで昆虫を誘う。実は食べられる。材は硬く、重要な建築材。
42	タブノキ (榎の木 /クスノキ科)	線香の材料に使われる。	常緑の高木。葉の表面は光沢がある。花は4~5月頃、黄緑色の小さな花を多数つける。実は夏に黒紫色に熟し、赤い柄がよく目立つ。

この木なんの木 樹木名一覧 【駐車場周辺】

